

(1953) .

- 28) 岩田清徳：サバの毛釣について、広島水試、27, (1952) .
- 29) 綿内寛：鯖はね釣りの切餌について、漁業技術改良、9, (1953) .
- 30) 小倉通男：釣餌に対するサバの行動、(プリント報告)、(1967) .
- 31) 高橋正雄・狩谷貞二・堀田秀之：サバ釣機構に関する研究、日水学会誌、35(8), (1969) .
- 32) 神奈川水試：自動サバ釣機実用試験報告書、神水試資料 48, (1966) .
- 33) 静岡水試：サバー本釣漁業技術改良試験、(1970) .
- 34) 神奈川水試：コマセ撒布機実用試験報告、神水試資料 49, (1966) .
- 35) 静岡水試：サバー本釣漁業の労働実態調査および漁業改良試験報告書、(1968) .
- 36) 静岡水試：サバー本釣漁業の餌作り作業の省力化について、(1969) .

2. 定地水温からみた黒潮の短期変動とサバ漁況

野矢和夫(静岡県水産試験場)

豆南海域における漁場形成は、房総沖からマサバ集団の来遊に始まり、4~5月にかけて豆南海域から分散北上で終了となる。

このマサバ成魚の南北移動と漁場の環境要因についてはまだ良く解明されていない。そこで初段階として産卵期、特に産卵後期の漁場形成と定地水温、黒潮流軸について検討をしてみた。

銭洲漁場は伊豆諸島海嶺という地形的条件より沖を流れる黒潮の流軸変動が激しく、これにともなつて漁場における水温分布も複雑である。現在、黒潮の流路を知る方法としては立体的な観測の後の数少ない資料を基にしているが、その観測の間にも短期間に流軸は変動をしている。そこで平面的な見方であるが、列島における南北の地点を選定し、定地水温の変化により流軸変動を簡易ながら察知できよう。

漁場に近い神津島の水温と銭洲での漁況の関係を見たが、魚自体が時期により産卵という生理現象が変化するため或る水温と好不漁を結びつけることは難しい。しかし神津島が19~20℃台を示すようになると漁況は低下し漁期も終了となる。この水温上昇には季節的な上昇もあるが、高水温水域の接近という面から産卵後期において銭洲漁場に黒潮の接近あるいは漁場を覆つたような時は早くに銭洲海域より分散が起つているようである。